

岡山県農業信用基金協会



1 岡山県の紹介

県名は1590年に宇喜多秀家が建築した岡山城が由来となっており、城周辺の小高い丘を「岡山」と呼んだことにちなんだものです。東は兵庫県、西は広島県、北は鳥取県に隣接し、瀬戸大橋で香川県と結ばれており、中四国地方の交通の要衝として重要な位置にあります。総面積は7,114.60km²で全国17番目、総人口は185万人強（令和6年）で全国20番目となっています。北部は中国山地と盆地、中部は吉備高原などの丘陵地、南部は平野に大きく分けられ、北部には美作三湯みまさかさんとうなど多くの温泉地があり、南部には多島美に恵まれた瀬戸内海が広がります。中国山地に源を発する3つの河川（吉井川、旭川たかはしかわ、高梁川）は、良質で豊かな水を常にたたえ、生活用水、工業用水、農業用水として利用されています。気候は、『晴れの国おかやま』を県のキャッチコピーとしているように、晴れの日が確実に多く、降水量1ミリ未満の日は全国1位となっています。観光地は岡山後楽園（日本

3名園）、岡山城、倉敷美観地区、鬼ノ城（桃太郎伝説の舞台）、備中松山城（天空の城）など、そして児島ジーンズストリートは高品質なデニムを生産していて、日本だけでなく世界的にも有名になり、多くのジーンズファンが訪れています。

食文化では郷土料理は、ままかり寿司やサワラ料理、ご当地のB級グルメは日生カキオコ、津山ホルモンうどん、ひるぜん焼そば、おかやまデミカツ丼、えびめしなど岡山弁で言う『ぼっけえうめえ』メニューがたくさんありますので来られた際にはぜひ味わってください。また、B'zの稲葉浩志、タレントの千鳥、メジャーリーガーの山本由伸（ロサンゼルス・ドジャース）等の活躍は地元を盛り上げてくれています。そして、昨年昇格して今年からサッカーJ1リーグで戦っているファジアーノ岡山のホームゲームには全国から多数のサポーター等の方々が来岡され、各所の観光地にも足を伸ばされ賑わっています。



岡山城



JFE 晴れの国スタジアム

2 岡山県の農業について

最大の強みは、年間を通じて安定した気候条件で、「くだもの王国おかやま」では温暖な気候を生かし、質の高い農業が営まれています。白桃の中でも清水白桃は栽培面積全国第1位で気品のある白さととろけ

るような味わいが特徴で、岡山白桃として高く評価されています。果物の女王と呼ばれる岡山特産のブドウであるマスカット・オブ・アレキサンドリア、紫黒色の大粒ブドウで種無し甘くて美味しいピオーネも同

全国第1位です。野菜は、上品な香りと甘みが自慢の黄ニラ、高級料亭の食材として人気の高い千両なす、太陽をサンサンと浴びておいしく成長した桃太郎トマト、肉質が柔らかで甘みのある連島ごぼう、味と香りがマイルドで食べやすい岡山パクチャー、滑らかな食感とみずみずしさが特徴の^{ひるぜん}蒜山だいこんなどがあります。畜産は県を代表する優良肉質和牛である千屋牛、乳の成分が濃厚で栄養価が高いジャージー牛が有名です。米は9年連続で食味



黄ニラ

ランキングの特Aを取得した「きぬむすめ」や県を代表するブランド米「朝日」など美味しいお米がたくさんあります。さらに、酒造好適米の最高級品種として評価の高い雄町米も岡山生まれです。



岡山パクチャー

3 岡山県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事8名（うち常勤1名）、監事3名の役員11名、職員11名（うち嘱託職員3名）で総務部と業務部（審査担当、管理担当）の2部体制により、少人数であるため総務と審査、審査と管理を兼務している職員もおり、業務を行っています。



4 岡山県農業信用基金協会の活動

当協会の保証残高ベースでの農業資金の割合は令和6年度末で4.3%程度となっています。農業資金の伸長については、県と協会など関係機関で地域単位での制度資金説明会の開催や農林中金と協会等で農業融資研究会の開催、畜産協会の開催する事業説明会への参加、JAと協会等で農業法人へ出向いて資金の説明、また農業者への推進資料として軍手等を作成して農業祭等に参加し、協会のPRも行っています。これらの効果もあってか、近年は毎年、農業資金は増加傾向にあります。

一方で住宅ローンは、本来はリトライ先であるKHL（協同住宅ローン）の実行金額シェアが令和元年頃から増加し、令和4年に急増しシェアが逆転し、令和6年度では協会31.2%、KHLが53.2%となっています。要因としてはKHLの保証料の安さと県

南JAへ直接営業されていることと考えられ、今年9月に全国統一の保証審査システムが当県にも導入されたため、この時期を好機ととらえ、保証料率体系の見直し及びJAローンセンター等への推進活動を頻繁に行い、JAに協会ファーストと思ってもらえるようJAへの訪問等を強化しているところです。

また、不祥事等の未然防止のため、今年初めて顧問弁護士に依頼してコンプライアンス研修を開催し、常勤役員と職員全員が受講し、あらためて業務の健全性の大切さを再確認したところです。今後も継続して農業信用保証保険制度の普及・推進そして農業経営基盤の一層の強化、農業者等の利便性の向上に資するよう、役職員一丸となり邁進していく所存であります。